

No. 24 2003. 3

目次

学術調査研究報告書と大学出版…… I
新入生のみなさんに—附属図書館を活用しよう…… 2
読書と図書館…… 3
研究上の文献検索…… 4
図書館と私…… 5
大学生活の便利空間…… 6
私にとっての図書館…… 7
理想の図書館像…… 7
“リング関係図書コーナー”のご紹介…… 8
医学部分館第5回・第6回(平成14年度)特別展示会開催報告…… 9
本学教官等著作寄贈図書・資料…… II
図書館統計…… 12
弘前大学附属図書館館内案内と各種サービス…… 13
平成15年度 弘前大学附属図書館開館カレンダー…… 14
ガイダンスのお知らせ…… 15

## 学術調査研究報告書と大学出版

弘前大学長 遠藤正彦

私の手元には、全学の教官から様々な学術研究調査報告書が届けられる。多くは、自らワープロしたものを、印刷会社でオフセット印刷し製本したものである。その表紙はレザック紙を使ったもので装丁はほとんど類似し、頁数は300頁に及ぶものもある。しかし、この多数の報告書を前に、いつも残念に思っていることがある。



この種の報告書は、内容が如何に優れていても、学術書としての価値は低いことである。文科系はまだしも、理科系の領域では、自己点検評価でも、教官選考の場合であっても、原著論文とは明確に区別され、その他の著書とか報告書として扱われる。定期行物ではないので、当然インパクトファクターはゼロで、他の研究者の論文の中で引用されることはまずない。

この種の報告書に高い評価が与えられないのには、それなりの理由がある。この種の報告書の内容は、第三者によるピアレビューを受けていないので、内容の正当性が保証されていないことが最大の理由である。したがって、その内容が世紀の大発見であっても、プライオリティは主張できない。また、学術情報の索引ネットにそれが掲載されていても、第三者が身近の図書館等でその全文を入手して、その内容を目にすることは不可能に近い。多くの研究者は、この報告書の元となる原著論文が必ずどこかに公表されていると信じているが、事実はそうではないことが多い。

この種の報告書を印刷公表する理由は、研究助成元に対する報告義務があるからである。しかし、一旦報告書が公表されてしまうと、自分の原著論文としての投稿の障害になることもあるし、また特許申請の資格要件を欠くおそれすらある。こうした問題の多い報告書作成のために、多くの研究者は、膨大な時間とエネルギーと経費をかけている。

そこで私は一つの提案をしたい。研究助成元への報告書は、それなりに使途された助成金

の成果を社会に還元するために必要であるので、報告書の作成は必要最小限に止め、その代わり、その内容を報告書公表の前後に可及的にすみやかに、原著論文として公表すべきである。但し、文系報告書のように、その記述や内容が膨大な場合、原著論文として受理するジャーナルがないので、この種の報告は、助成元との協議の上、学術著書扱いとなる単行本として、然るべき出版社より刊行すべきであると提案したい。

出版社より刊行されたその学術著書は、国際標準図書番号 (ISBN) が与えられ、国会図書館はもとより、多数の図書館に収蔵され、多くの研究者の目に触れることになる。その結果、原著論文同様にあつかわれ、個人の評価の中で重要な位置を占めることになる。勿論この出版には、文系に限らず理系の総説的内容の学術書も含まれる。

しかし、この出版には、著書の内容を精査する必要があり、また、経費と手間のかかることは当然であり、刊行にあたっては、出版社や販売会社との交渉や校正等、経験のない研究者にとっては大変な事業である。

そこで、弘前大学教官等の著書の刊行を容易にするため、目下弘前大学研究推進委員会では、ワーキンググループを作り、弘前大学出版会の設立に向けて検討を進めている。財政や人的支援等難問山積である。しかし、すでに多数の国立私立の大学が自前の出版会を有して出版活動を続けている。本学は文系理系5学部を擁する中規模ではあるが総合大学であるので、出版する書籍の内容には事欠かない。法人化を迎えて、本学の自立性と特徴を出すためにぜひ全学的支援をお願いしたい。

(えんどう・まさひこ)

## 新入生のみなさんに—附属図書館を活用しよう

弘前大学附属図書館長 清水俊夫

新入生のみなさん、入学おめでとう。これからの4年間の学生生活を、勉学はもちろんのこと、部活などいろいろな活動をして、充実した豊かなものにして欲しいと思います。

みなさんはこれから附属図書館を様々な形で利用することになるでしょう。小説などの文学書、レポートや自習のための教科書・参考書を借りたり、閲覧室で読書や調べものをしたり、新聞や雑誌を読んだりもするでしょう。試験勉強の場として利用する機会もあるだろうと思います。セミナー室、LL設備、電子資料なども備えられています。このような学生のための学習環境を提供することが、附属図書館の主な役割となっています。

附属図書館にはこの他に、研究のサポートというもう一つ重要な役割があります。学部学生としての4年間にこの部分に触れる機会は少ないでしょうが、研究ジャーナルの購

読・閲覧のためのサービス提供です。研究競争のグローバル化が進んでいて、英語論文を読んだり発表したりすることが以前にも増して強く求められるよう

になってきています。特に、2、3年前からは電子ジャーナルが普及し始め、冊子体に比べてその比重を増しています。この電子ジャーナルによって、大学で研究に携わっている我々は大いに助かっています。ジャーナルを置いてある場所に足を運ぶことなく研究室の端末からアクセスし、多くの論文を自由に読むことができます。カラープリンターが手元にあれば、近ごろ増えているカラー論文も印刷してすぐに読むことができます。ダウンロードしたPDFファイルを保存



しておいて、必要な時にまた印刷したり、プレゼンの資料としても使えます。

論文をたくさん集めて読むのは、最新の研究動向を探ったり、自分の研究の参考にするためだけではありません。大量の論文から貴重なデータを集めて解析するという研究分野があります。私の行っているゲノム情報解析の分野では、データベース検索や既知データに基づく予測法が基本技術になっています。このような研究を始めた10年程前には、電子ジャーナルはまだなくて、文献を収集しようとするれば、複写サービスに頼るしかありませんでした。その複写サービスがスタートしたのも、せいぜい十数年前です。それ以前は別刷請求が唯一の方法でした。“Current Contents”という論文目録誌を調べて目ぼしい論文を探し出し、著者宛に別刷請求カードを送るのです。航空便は高いので船便を使うのが普通でした。そうすると1ヶ月くらい後に別刷が送られてくるのです。請求カードを出すのが、ひと頃の私の日課となっていたくらいです。それに比べると、文献複写サービスは実に便利なものでした。この頃にはイン

ターネット上でMEDLINE検索ができるようになっていましたので、キーワードで論文を検索し、論文タイトルとアブストラクトを頼りに論文を絞り込み、それを文献複写依頼に出すわけです。私はこの方法で1000を超える論文コピーを収集し、それを一つ一つ読むことによってデータを抽出するという仕事を、学生とともに行いました。しかし、複写依頼書の記入は大変苦痛な作業でした。それ以上に、これだけの数の論文のコピーを撮らなければならなかった図書館職員はもっと大変だったろうと、心苦しく思っています。この研究を陰で支えてくれたのは、図書館の文献複写サービスだったのです。複写依頼の件数は今でも増え続けていますが、電子ジャーナルのおかげで、少なくとも私は、このような大変な作業から解放されるようになり、大いに感謝しているところです。

みなさんも、このような附属図書館を大いに活用し、これからの弘前大学での学生生活を有意義で実り豊かなものにすることを期待します。  
(しみず・としお)

## 読書と図書館

人文学部社会システム課程3年 富 樫 純

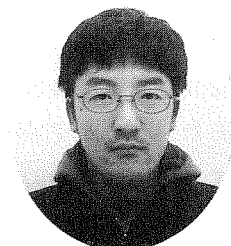
私のような者が新入生の参考になるようなアドバイスができるとは到底思えないが、まず、アドバイスをして、次に、読書の効果について述べ、最後に図書館について述べたい。

では、新入生に対してアドバイスをする。「面白いと思える講義を一つでも見つけて、その講義を担当している先生の薦めている図書を読んでみてください」

なぜこのようなアドバイスをするのかというと、私の個人的な体験談で申し訳ないが、本当に、体験してよかったと思っているからである。というのは、本の面白さに気づき、本当にやりたいことが

見つかったからである。

あれは、大学1年の後期の授業について考えている時だった。あまりにも、コマ数が少ないことに驚いた。週7コマなのである。これでは授業料がもったいない。そう考え、1年生ながら、2、3年生対象の授業に出席しようと思案、実行した。そして、ある講義が大変面白く、その講義の担当教官が薦めている文献を読んでみようと思った。そして読んでみると、ますます面白い。



それからというもの、その教官が薦めている本は、それこそ手当たり次第読んだ。そうすると、今度は、その教官以外の教官が担当している講義も大変興味深く思えるようになった。同じように、薦めている本を読んでも、やはり、面白い。読書にどんどんのめりこんでいった。そして、書籍の編集者になりたいと思うようになったのである。

次に、読書の効果について述べるが、上記でも触れているが、講義が面白くなる。ニュースも面白くなる。色んなものが見えてくる。ますます知りたくなる。面白い話を聞

きたくなる。抽象的で分かりにくかったかもしれないが、分かってくれる人がいると確信している。

最後に、図書館について述べるが、上記のように述べてくると、図書館で本を借りて読んでいるかのような印象をもっているかもしれないが、実際は、自費で購入した。その費用はアルバイトをして捻出した。図書館は本が好きなので、何と無く行くこともあるが、主に、何かを調べたいときに利用する。知りたいことが見つかった時はうれしいものである。  
(とがし・じゅん)

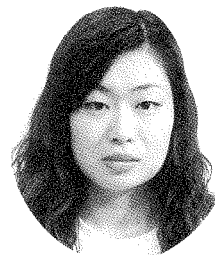
## 研究上の文献検索

教育学部3年 竹浪 紗弥子

1年の時はあまり利用しなかった図書館。でも、上の学年になるにつれて必要にせまられて利用するようになりました。図書館に一步足を踏み入ると、その静寂さから、また、まわりの人々が勉強している様子からも、自分もがんばらなければという気持ちになります。やる気が出ない、でもレポートの締め切りは明日に迫っているという時に図書館へ行くと、自然とやる気が出てきてレポートが進むので不思議です。

私は、教育学部で中学校国語を専攻しています。国語科といっても国語学（つまり言葉としての国語）から中古～近現代の日本文学、漢文学、国語科教育とさまざまなジャンルがあり、それぞれ研究することも違ってきます。今回は自分の専門でもある、近現代文学の文献検索についてお話したいと思います。今までの研究の成果を知り、自分の卒業論文を書く上でも、文献を探すことは大切です。まず、カウンターの脇にある（または玄関の近くにもある）OPACと呼ばれる検索システムで、探したい文献のキーワードを入れます。それで検索ボタンを押してみると何件かヒットすると思います。つまり、表示された

書物が図書館に存在するということです。今度はその書物が図書館のどこにあるかを探します。「開架」と書かれている場合は、背表紙に書かれている番号を



頼りに自力で探すことが出来ます。もし、「書庫」と書かれている場合にはカウンターで請求すると、係員の方が探して持ってきてくれます。「書庫」には今ではあまり読まれなくなった本や、古い専門書が所狭しと並んでいて、3年の後期になったら自分で書庫内を歩いて探すことも出来ます。もちろん開架図書の方も役立ちますが、私はこの書庫という場所が好きでよく利用します。どこを見ても一面本だらけで、暗くて、湿った感じがして、おぼけが出そうな雰囲気なのですが、一度書庫に入ると文献探しに時間も忘れて没頭してしまいます。卒業論文なんて、まだまだ先と入学時は思いますが、時の経つのは本当に早いので、いざという時にあわてないためにも1年のうちから図書館を活用することをおすすめします。  
(たけなみ・さやこ)

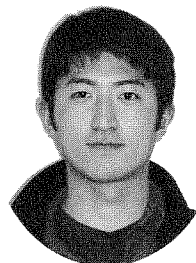
## 図書館と私

医学部医学科5年 矢口 慎也

図書館。それは図書・記録やその他の資料を収集したり、整理したり、保管したりし、必要とする人の利用に供する施設なのであるが、みなさん利用したことがあるだろうか。近年、テレビの発達やそれによるテレビゲームの発達などによって、余暇の時間を読書に費やすという人を行う人は少なくなった。もちろん、私もその時代の流れに逆らわず、テレビを見たり、テレビゲームをする事が多い。しかし、それでも必ず一週間に何時間かは読書の時間に充てる。なぜなら読書は、テレビゲームなどでは得られない世界が得られるような気がするからなのです。

私が初めて図書館に行ったのは、たぶん幼稚園の頃だったと思う。読書が趣味な母に連れられてよく行っていたけれども、当時は本を全くといっていいほど読まなかった。図書館に行くたびに毎回母が何冊か、私の為に本を借りてくれるのだが、結局期限になっても読まず、そのまま返却するという繰り返しだった。母からは、そのたびに、「一度、きちんと本を読んでみなさい。あなたは損しているわよ。本を読むことによって、自分の知らない世界が広がっていくんだから。」と耳にタコができる位言われ続けた。しかし、そんな事を言われれば言われる程、テレビの方が面白いやと思っていた。

そして、ほとんど本を読まないまま、小学校高学年になり読書感想文を書くためにある本を読んだ。それまで本というものをほとんど読んでなかった私



は、当初はその本を読むのが苦であったが、読んでいくうちに、生まれて初めて、次のページは何が書いているのだろうか……これからどんな展開になっていくのだろうか、その本にはまっていった。それからというもの、さまざまな分野の本を読むようになった。今思うと、自分が受け身となって情報を与えてもらうテレビよりも、自分から情報を取りに行く読書の方が、想像などによる世界が数多く得られるものだなと感じる。

自分の知らない世界に導いてくれる本。その本が無数に集まっている図書館。その無数の本の数だけ、新たな世界が用意されている場所だといっても過言ではないのです。みなさんも、テレビを見るのもいいですが、たまには未知なる世界へと導いてくれる本がたくさん集まった図書館に来て、私と共に、未知なる世界を見つけに行きませんか？

(やぐち・しんや)

# 大学生活の便利空間

医学部保健学科理学療法学専攻1年 高橋 堅

二度目の学生生活ともなると図書館も利用しなければ損、というようなあつかましさが出て、本来の目的とは異なることもあるでしょうが、私は以下のような利用のしかたをしています。

## 1. 授業の合間の自習室

授業と授業の合間、また授業終了後アルバイトに行くまでのちょっとした空き時間の自習室として図書館の閲覧室は重宝しています。机が大きいのが何ととっても便利な点です。

## 2. 授業の合間の憩いのひととき

自習室として使うつもりで図書館へ行くのですが、寝不足状態のことが多い私は机に座ってはっと気づくと意識が宙をさまよっていたことが結構ありました。そこで最近、疲れている時は次の授業をしっかりと受けるためにも積極的に閲覧室で一時意識をなくすことにしています。

## 3. 資料室として

図書館本来の目的に適った使い方ももちろんしています。大学でまともに勉強しようとすると、レポートや授業での発表のためだけでも教科書にないことをいろいろ調べなければならぬんですね！ 二度目の学生生活で初めて知りました。さすがに図書館だけあって専門書がたくさんありますから、調べてみるとGreek! だったことがわかったり、変

だと思っていたことが納得できたりすることが多いです。時間もなにもに深みにはまることもあるので要注意ですが。

## 4. マイライブラリーとして

家庭での冷蔵庫の整理法で、「近くのコンビニを自分のうちの冷蔵庫だと思って本当にすぐ要るもの以外は買わないでおく」というのがありますが、同様に図書館を「ちょっと離れた自分の本棚」と考えると、収入もなく狭いアパート住まいの学生に最適の超整理法となります。専門書以外は難しい面もありますが、図書館は利用者からの「購入希望図書」を募っているのです。それに書いて買ってもらうということも可能です。そういえば以前の学生の際は「世界山岳地図集成」という上下2巻、各数万円もする本を山岳部の仲間数人で希望図書に書いて買ってもらったことがありました。

その他、コピー室として使ったり、待ち合わせの場所としても利用したりしています。これからも大学生活での便利空間として図書館を利用していきたいと思っています。

(たかはし・けん)



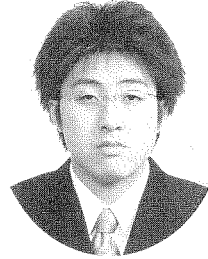
# 私にとっての図書館

理工学部数理システム科学科4年 讀 岐 勝

私は図書館という第2の部屋を持っている。宿題・レポートのためにはもちろんのこと新聞・雑誌を読むために図書館に行くこともしばしばである。夏はクーラーが効いているし、普段は人があまり来ないので周りの目を気にすることなく落ち着いて勉強できる。学生生活の中で3分の1は図書館で過ごしていて欠かすことのできない大事な空間である。

私は「数学の女王」と言われている整数論を学んでいます。わからないことがあった場合、本で調べるのが普通だが1冊の本に答えがそのまま載っていることはまず無い。私の場合、多ければ10冊近くの本を用意して調べて計算や証明をすることもある。ここまで来ると家での勉強は不可能になってくるため図書館での勉強が自然と多くなる。頻繁に通うことで1年たつ頃には専門書のある場所は頭の中に入ってしまうので自分の部屋の本棚と同じように使えるようになっていく。2年たつ頃には本の著者とその著者のいる大学など本の隅々まで覚えてしまっていることもある。3年たつ頃には日本語の本では用が足り

なくなり洋書などに手を出し始めたりもした。この時点では英語など読めるわけもないので英語の勉強などを通して、今現在では専門であれば辞書なしでも読めるようになるなど期待以上のものも手に入れることができた。



この図書館につかるという大学生らしからぬ生活のおかげであろう、進路を決定することができたと思う。本を見ることで数学のあらゆる分野に触れることができ自分の好きな分野を見つけることができた。また著者と今在籍する大学という余計な知識も大学院を選ぶときには選択の1つの材料となっていた。

大学生活4年間は長くて色々なことができると思う。少しでもいいから図書館に足を運んでもらいたい。何が役に立つかはわからないが必ずプラスにはなるはずである。私は次の大学でも図書館を自分のものにできるよう通おうと思う。

(さぬき・まさる)

# 理想の図書館像

農学生命科学部 野 呂 安記子

大学にとって図書館は大きな存在である。研究に必要な専門書や学術雑誌、教育に必要な教科書的な本や辞書類、そしてそれらを利用して学習するための環境が必要である。これが、私が漠然と考えていた大学の図書館像であった。しかし大学の図書館と市立図書館との違いが、本が専門的になったことくらいであるのがっかりした。図書館というものに私は、過去の知的財産の集積の場であり、大学の持つ真理の探究への武器庫だと

いうことを期待していたのかもしれない。だが、時代は確実に動いているのであり、図書館の機能も変わってきているのも事実である。現在のようなインターネットの時代では、その図書館像も本質的には変わらないものの、急速に進歩する電子機器などを備えなければならず、それなり



の設備が必要となろう。そしてそれらをうまく利用する方法を模索するのが、利用者の課題となるだろう。

本学の図書館を利用する度に思うことだが、なんと無味乾燥な書籍の置き場だろうと感じる。このことを多くの友達に話すと、同じ意見が返ってきた。何が足りないのだろうか。図書館は、単なる調べものや予習復習のためのものではない。そこは思索の場所でもあり、また時には頭をリラックスする場所でもある。大学の図書館とは、そのような雰囲気を持った場所であるべきである。それが足りない。

しかし、図書館で今まで分からなかったことが自分の力で分かったとき、しかも根詰め

て考え、理解できたときの感動は大きい。そしてその感動を十分に味わえるコーナーがあれば最高である。私の希望する図書館とはまだまだ遠いが、その感動を感じるためには何度も通う事が大事である。また図書館に行つて多くの人たちが机に向かって真摯に読書をしたり、考え事をしたりしている姿を見ると、大きな刺激になる。そのことでは本学の図書館は機能を果たしているのではないだろうか。

大学の図書館に何を求めるかは人それぞれであるが、その中で自分なりの利用方法、楽しみ方を見つけ、うまい付き合い方をしていくことをお勧めしたい。

(のろ・あきこ)

## “リング関係図書コーナー”のご紹介

原 田 幸 雄

附属図書館本館二階開架閲覧室の一隅（参考図書閲覧室の入り口）にりんご関係図書のコレクションのコーナーが設けられた。小生は図書館長からの依頼を受け図書選定の世話をさせていただいたので、コレクションの経緯と現状を紹介したい。

青森県りんご対策協議会は平成13年9月27日、弘前大学にリングの学術研究に対する助成金として1,000万円を寄付された。その一部を基金にりんご関係図書を購入することが計画された。従来リング関係の図書の多くは農学生命科学部でそれぞれの教官の研究費から購入されているため、栽培、発育生理、病害虫、収穫、流通、貯蔵、加工などそれぞれ専門分野ごとに別の研究室に保管されている。このたびのコレクションは学生や内外の利用者の便を考慮して1か所に集中して管理することとした。またこれを機会に関係図書の研究室からの移管や寄贈をお願いした。

選定に際しては大学のリング図書コレク

ションにふさわしい内容となるよう心懸けた。これまで購入したもののおよび移管あるいは寄贈を受けたものを合わせ約60冊が揃った。いろいろな分野にまたがっているが和書が大部分で洋書は数冊である。将来、これを核に冊数を増やし、弘前大学附属図書館の中で特色あるコレクションの1つとして発展させたいものである。電子ジャーナルの時代とはいえ、書物を直に繙くことによってインターネット上で探しきれない情報を得ることも多い。またコレクションに漂ふ雰囲気から古今東西の著者の息吹に啓発されることもあるだろう。リングに関心のある方は機会を見てこのコーナーに足を止めていただきたいと思う。今回の図書蒐集で古い書物を集めることの困難さを痛感した。今度ますますその傾向は強まるものと思われるので時機を失しないよう急ぐ必要がある。本コレクションの充実を引き続きご支援下さるよう改めてお願いする。

(はらだ・ゆきお 農学生命科学部教官)



## 医学部分館 第5回・第6回（平成14年度）特別展示会開催報告

附属図書館医学部分館で春秋の年二回特別展示会を持つようになって3年目になった。第一回「ノーベル賞にみる西洋医学の系譜」、第二回「弘前藩医松野家史料展」、第三回「オスラー展」、第四回「レオナルド・ダ・ヴィンチの解剖手稿」展と、回を重ね平成14年度は、第五回「セミナー医療と社会：よりよい医療を求めて」展と、第六回「ジェンナー展：ジェンナーの贈りもの」を開催した。

「セミナー医療と社会」展は6月24日（月）から7月19日（金）までの約一ヶ月、土日休館なので正味二十日間の開催で、主催医学部医学科図書委員会・セミナー医療と社会、共催弘前大学医師会、後援青森医学振興会による。期間中の入館者は350名・1日平均20名程度であった。展示は副題として「セミナー医療と社会の歩みと機関誌・関係書籍」とあるように「セミナー医療と社会」の創立以来の十年間の活動を紹介し展示するものである。このセミナーの代表世話人の品川信良名誉教授は勿論だが、非常勤講師として本学部

の教育に参加されている方もこのセミナーには少なくない。当館特別展示会において、学外の活動団体の展示会は初めてのことであった。展示内容は、初回発表会からのポスターと機関誌全号、会員の刊行書籍、世界各国の生命倫理を中心とした百点以上の雑誌書籍が紹介された。今回の展示資料の多くはセミナー代表世話人でもある品川信良名誉教授の提供によるものである。

「ジェンナー展」は10月21日（月）から11月29日（金）までの約一ヶ月半、平日は午後8時まで、土・日・祝日も学生の協力で午後5時までの開館とした。四十日間の開催で、主催医学部図書館・図書委員会、共催弘前大学医師会、後援青森医学振興会・ジェンナー博物館（英国）による。期間中の入館者は500名を超え、そのうちの2割程度は医学部外からで一般市民の方の参観もこれまで以上に多く、医学部への高校訪問の県外からの高校生など、多くの方が訪れてくれた。展示は、最近、新聞報道などでも取り上げられている天



展示資料



然痘に関係します。天然痘の恐ろしさが問題とされているのは、バイオ・テロに天然痘のウィルスが使用される可能性があるという指摘されているからです。この恐ろしい疫病から人類を救ったのが18世紀末のイギリスの開業医エドワード・ジェンナーです。ジェンナーの発見した牛痘種痘法は今日の私たちにとっての偉大な遺産とすることができます。展示内容は、この大きな遺産を残してくれたジェンナーの人となりや業績、さらには牛痘種痘法が日本に伝えられた足跡を訪ねています。「ジェンナーと故郷パークレイ」・「病気 天然痘」・「バイオテロ」・「ジェンナー像」・「日本の天然痘」・「中川五郎治」と題して関係資料をパネルで展示したほか、自費出版した

ジェンナーの初版本、自筆の手紙、ジェンナーに関する稀覯本などを展示した。これらの展示資料の多くは図書委員でもある麻酔科学講座松木明知教授の提供による。また記念講演会で講演いただいた大阪大学名誉教授の加藤四郎先生からも貴重な資料の提供をいただきました。

これら年2回、春と秋に開催の特別展示会開催にあたっては、医学部内外の数多くの方の協力によるところが大きい。みなさんの協力と、参観者からのお礼・ご意見などをメールや手紙でいただいたことに感謝し、今後の展示会において更に多くの方々にご参観いただけるよう努力したい。

(医学部分館資料サービス係)

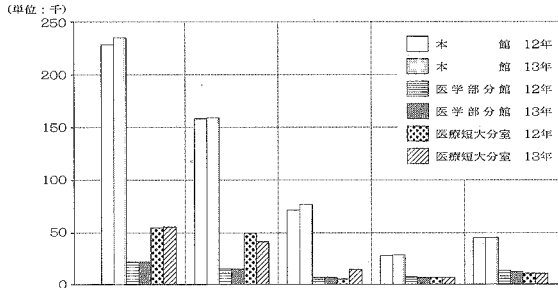
本学教官等著作寄贈図書・資料(平成14年3月～平成15年2月受贈分)

寄贈者等	資料名	発行所・発行年	冊数	所蔵先
(人文学部) 田中 一隆 新井 一夫	・シェイクスピア：世紀を超えて ・管理会計テキスト	研究社 2002	1	本館
		東京経済情報出版 2001	1	本館
(教育学部) 麓 信義	・スポーツ心理学からみたサッカーの理論：ワンランクアップのために ・勝者の条件：アスリートの「心」をどう鍛えるか	三一書房 1995	1	本館
		春秋社 2001	1	本館
(理工学部) 本瀬 香	・線形代数入門 ・代数的整数論入門 ・Proceedings of the 21st Symposium on Ring Theory : held at Hirosaki University, Hirosaki, October 20-22, 1988	学術図書出版社 2001	1	本館
		学術図書出版社 1998	1	本館
		Okayama University 1989	1	本館
(医学部) 松木 明知	・周術期における BIS モニターの臨床応用 ・麻酔科の本質 ・日本牛痘種痘史文献目録  ・日本麻酔科学史資料 10～14, 16	克誠堂出版 2002	2	本館1・分館1
		克誠堂出版 2002	2	本館1・分館1
		松木明知 (制作)岩波出版サー ビスセンター 2002	2	本館1・分館1
		克誠堂出版 1997-2001	6	分館
		弘前大学医学部解剖 学第一講座 2001	3	分館
		弘前大学医学部解剖 学第一講座 2001	2	分館
正村 和彦 解剖学第一講座	・神経解剖学講義 2001 (Vol. 1-2), 2002 ・内耳骨迷路の比較解剖学的研究	弘前大学医学部解剖 学第一講座 2001	2	分館
		弘前大学医学部解剖 学第一講座 2001	2	分館
今泉 忠淳 三田 禮造	・写真集久我山界限 ・ジャマイカ国南部地域保健強化プロジェクト専門 家報告書, 推進状況の評価と課題 ・ジャマイカ国南部地域保健強化プロジェクト推進 状況の評価と課題	弘前大学医学部解剖 学第一講座 2001	2	分館
		水星舎 2002	1	分館
		弘前大学医学部 2001	1	分館
鍵谷 昭文	・Phethysmographic study in obstetrics, gynecology and arteriosclerosis	弘前大学医学部 2001	1	分館
		Shinyuhosha 2002	2	分室
(名誉教授) 齋藤 良治	・Aiming to improve treatment results for gynecologic malignancies	Department of obstetrics and gynecology, Hirosaki University School of medicine 2001	1	分館

ご寄贈ありがとうございました。附属図書館2階の「本学教官著作物」書架で展示紹介をした後、図書館の蔵書等に加え広く利用させていただきます。今後とも図書館資料の充実を図るため、教官の皆様のご協力をお願いいたします。

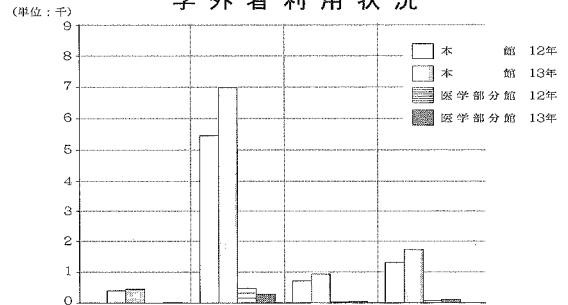
# 図書館統計

## 入館者数及び館外貸出状況



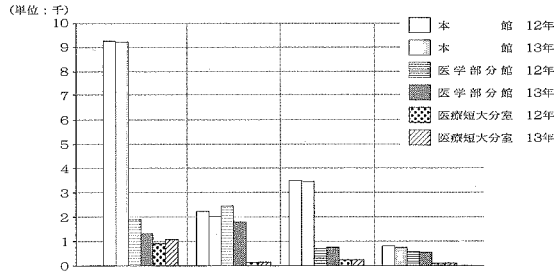
区分	年度	入館者数			館外貸出	
		総数	平日	時間外	貸出者数	貸出冊数
本館	12	227,087	156,963	70,124	27,160	43,879
	13	233,623	157,728	75,895	27,690	44,127
医学部分館	12	21,104	14,609	6,405	6,801	12,936
	13	21,154	14,351	6,803	6,229	11,670
医療短大分室	12	53,458	48,466	4,992	6,568	10,205
	13	54,367	40,383	13,984	6,485	10,239

## 学外者利用状況



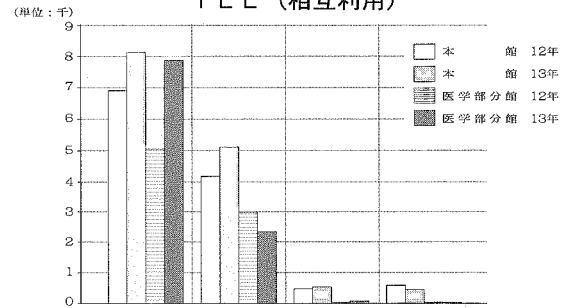
区分	年度	利用証発行数	利用者数	貸出者数	貸出冊数
本館	12	399	5,414	713	1,310
	13	444	6,972	934	1,720
医学部分館	12	0	473	26	68
	13	1	283	41	114

## 受入図書冊数及び受入雑誌種類数



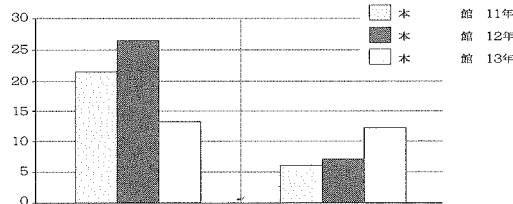
区分	年度	受入図書冊数		受入雑誌種類数	
		和書	洋書	和雑誌	洋雑誌
本館	12	9,265	2,245	3,516	813
	13	9,236	2,039	3,466	742
医学部分館	12	1,900	2,468	707	578
	13	1,323	1,810	755	553
医療短大分室	12	918	135	244	46
	13	1,082	146	244	50

## I L L (相互利用)



区分	年度	文献複写		図書貸借	
		受付件数	依頼件数	貸出	借用
本館	12	6,861	4,098	467	579
	13	8,096	5,042	533	444
医学部分館	12	4,981	2,936	25	18
	13	7,841	2,313	38	16

## 読書会室及び研修会室使用状況



区分	年度	読書会室	研修室
本館	11	21	6
	12	26	7
	13	13	12

# 弘前大学附属図書館

## 館内案内と各種サービス

**メインカウンターでのサービス**  
 資料の貸出・返却手続き  
 他大学図書館利用の申込  
 学生希望図書への申込  
 利用証の交付  
 読書会室・研修室の利用申込  
 図書館の利用について不明な点がございましたら、カウンターへお気軽にお尋ねください。

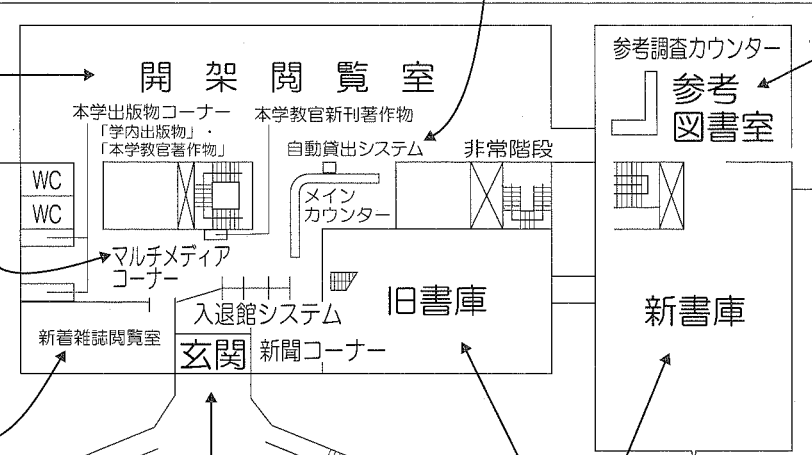
**自動貸出システム**  
 開架の図書は、この装置で貸出処理ができます。特別貸出や、雑誌はカウンターへ。

**参考カウンターでのサービス**  
 レファレンス・サービス  
 文献複写・相互貸借受付  
 オンライン情報検索  
 視聴覚資料の利用申込

**開架閲覧室**  
 約 5 万冊を分野別に配架しています。自由に閲覧できますが、見終わった資料は、必ず元の場所に戻すか、返却台に置きましょう。

**マルチメディアコーナー**  
 総合処理センターのサテライト端末 30 台が設置されています。学内者に限り利用できます。マナーを守って利用しましょう。

**新着雑誌閲覧室**  
 和洋雑誌を配架しています。新着雑誌以外は貸出できません。去年以前のバックナンバーは書庫にあります。



**参考図書室**  
 事典や年鑑、目録索引など二次資料を配架したいわゆる調べものための部屋です。原則として、資料は館内で利用してください。またコンピュータによる情報検索もできます。

**旧書庫・新書庫**  
 書庫内の資料も利用できます。入庫制限をしていますので、入庫できない方はカウンターへ請求してください。

**玄関**  
 入退館システムのゲートがあります。入館の際は利用証を読み取らせて入ってください。利用証をお持ちでない方はカウンターへお申し出ください。足の不自由な方のための身障者用出入口が新書庫側 1 階入り口にあります。

**図書館利用の際の注意事項**  
 館内での飲食・喫煙・携帯電話の使用はご遠慮ください。  
 利用証の貸し借りはやめましょう。  
 図書を紛失した場合は、原則として同一図書を弁償していただきます。

**蔵書検索 (OPAC)**  
 館内に端末が設置されています。この端末で弘前大学が所蔵している資料の検索ができます。資料を探す際は、検索で資料の所在を確認するようにしましょう。なお 1986 年 4 月以前の資料は、カード目録でも検索してください。

# 平成15年度弘前大学附属図書館開館カレンダー

## 本館

<b>4</b> * * 1 2 3 4 ⑤ ⑥ 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 * * * * * * * * * *	<b>5</b> * * * * 1 2 ③ ④ ⑤ 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 ③① * * * * * * *	<b>6</b> 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 * * * * * * * * * * * *	<b>7</b> * * 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 ②① 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 * * * * * * * * *
<b>8</b> * * * * * 1 ② ③ 4 5 6 7 8 ⑨ ⑩ 11 12 13 14 15 ⑬ ⑭ 17 18 19 20 21 22 ⑮ ⑯ 24 25 26 27 28 29 ⑰ ⑱ ⑳ * * * * *	<b>9</b> * 1 2 3 4 5 ⑥ ⑦ 8 9 10 11 12 ⑬ ⑭ ⑮ 16 17 18 19 ⑰ ⑱ 21 22 ⑲ 24 25 26 27 28 29 30 * * * * * * * * * * * *	<b>10</b> * * * 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 ⑬ 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 * * * * * * * *	<b>11</b> * * * * * * 1 2 ③ 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 ⑲ 23 ⑳ 25 26 27 28 29 30 * * * * * *
<b>12</b> * 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 ⑲ 24 25 ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ * * * * * * * * * *	<b>1</b> * * * * ① ② ③ ④ ⑤ 6 7 8 9 ⑩ ⑪ ⑫ 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 * * * * * * *	<b>2</b> 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 ⑪ 12 13 ⑭ ⑮ 16 17 18 19 20 ⑲ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ * * * * * * * * * * * * * *	<b>3</b> * 1 2 3 4 5 ⑥ ⑦ 8 9 10 11 12 ⑬ ⑭ 15 16 17 18 19 ⑰ ⑱ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ * * * * * * * * * * * *

部分は延長開館 月～金 9:00～22:00 土曜・日曜 10:00～17:00  
 部分は通常開館 月～金 9:00～17:00 土曜・日曜 休館  
 ○ 部分は休館日及び休館予定  
 ※ 臨時に休館することがあります。掲示やホームページでお知らせします。  
 開館等問い合わせ先：利用サービス係 0172-39-3162  
 学外者にも閲覧・貸出しております。メインカウンターで手続きしてください。

## 医学部分館

<b>4</b> * * 1 2 3 4 5 ⑥ 7 8 9 10 11 12 ⑬ 14 15 16 17 18 19 ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ * * * * * * * * * *	<b>5</b> * * * * 1 2 ③ ④ ⑤ 6 7 8 9 10 ⑪ ⑫ 13 14 15 16 17 ⑱ 18 19 20 21 22 23 24 ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ * * * * * * *	<b>6</b> ① 2 3 4 5 6 7 ⑧ 9 10 11 12 13 14 ⑮ 15 16 17 18 19 20 21 ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ * * * * * * * * * * * *	<b>7</b> * * 1 2 3 4 5 ⑥ 7 8 9 10 11 12 ⑬ 14 15 16 17 18 19 ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ * * * * * * * * * *
<b>8</b> * * * * * 1 2 ③ 4 5 6 7 8 9 ⑩ 11 12 13 14 15 16 ⑱ 17 18 19 20 21 22 ⑲ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ * * * * * *	<b>9</b> * 1 2 3 4 5 6 ⑦ 8 9 10 11 12 ⑬ ⑭ ⑮ 16 17 18 19 ⑰ ⑱ 21 22 ⑲ 24 25 26 27 ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ * * * * * * * * * * * *	<b>10</b> * * * 1 2 3 4 ⑤ 6 7 8 9 10 11 ⑫ ⑬ 14 15 16 17 18 ⑱ 20 21 22 23 24 25 ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ * * * * * * *	<b>11</b> * * * * * * 1 ② ③ 4 5 6 7 8 ⑨ 10 11 12 13 14 15 ⑱ 16 17 18 19 20 21 22 ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ * * * * * *
<b>12</b> * 1 2 3 4 5 6 ⑦ 8 9 10 11 12 13 ⑭ 15 16 17 18 19 20 ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ * * * * * * * * * *	<b>1</b> * * * * ① ② ③ ④ 5 6 7 8 9 10 ⑪ ⑫ 13 14 15 16 17 ⑱ 18 19 20 21 22 23 24 ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ * * * * * * * * * * * *	<b>2</b> ① 2 3 4 5 6 7 ⑧ 9 10 ⑪ 12 13 ⑭ ⑮ 16 17 18 19 20 21 ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ * * * * * * * * * * * * * *	<b>3</b> * 1 2 3 4 5 6 ⑦ 8 9 10 11 12 13 ⑭ 15 16 17 18 19 ⑰ ⑱ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ * * * * * * * * * * * *

部分は延長開館 月～金 9:00～20:00 日曜 休館  
 部分は通常開館 月～金 9:00～17:00 日曜 休館  
 ○ 部分は休館日及び休館予定  
 ※ 臨時に休館することがあります。掲示やホームページでお知らせします。  
 開館等問い合わせ先：資料サービス係 0172-39-5232  
 学外者にも閲覧・貸出しております。メインカウンターで手続きしてください。

## 医学部分館保健学科分室（医療技術短期大学部分室）

<b>4</b> * * 1 2 3 4 ⑤ ⑥ 7 8 9 10 11 ⑫ ⑬ 14 15 16 17 18 ⑲ ⑳ 21 22 23 24 25 ⑳ ㉑ 27 28 29 30 * * * * * * * * * *	<b>5</b> * * * * 1 2 ③ ④ ⑤ 6 7 8 9 ⑩ ⑪ 12 13 14 15 16 ⑰ ⑱ 18 19 20 21 22 23 ⑳ ㉑ 25 26 27 28 29 30 ⑳ * * * * * * *	<b>6</b> ① 2 3 4 5 6 ⑦ ⑧ 9 10 11 12 13 ⑭ ⑮ 15 16 17 18 19 20 ⑰ ㉑ 22 23 24 25 26 27 ⑳ ㉑ 29 30 * * * * * * * * * * * *	<b>7</b> * * 1 2 3 4 ⑤ ⑥ 7 8 9 10 11 ⑫ ⑬ 14 15 16 17 18 ⑲ ⑳ 21 22 23 24 25 ⑳ ㉑ 27 28 29 30 31 * * * * * * * * *
<b>8</b> * * * * * 1 ② ③ 4 5 6 7 8 ⑨ ⑩ 11 12 13 14 15 ⑰ ⑱ 17 18 19 20 21 22 ⑳ ㉑ 24 25 26 27 28 29 ⑳ ㉑ 31 * * * * * *	<b>9</b> * 1 2 3 4 5 ⑥ ⑦ 8 9 10 11 12 ⑬ ⑭ ⑮ 16 17 18 19 ⑳ ㉑ 21 22 ㉑ 24 25 26 ㉑ ㉑ 28 29 30 * * * * * * * * * * *	<b>10</b> * * * 1 2 3 ④ ⑤ 6 7 8 9 10 ⑪ ⑫ ⑬ 14 15 16 17 ⑱ ⑲ 20 21 22 23 24 ⑳ ㉑ 26 27 28 29 30 31 * * * * * * * *	<b>11</b> * * * * * * ① ② ③ 4 5 6 7 ⑧ ⑨ 10 11 12 13 14 ⑱ ⑲ 16 17 18 19 20 21 ⑳ ㉑ 23 24 25 26 27 28 ⑳ ㉑ 30 * * * * * *
<b>12</b> * 1 2 3 4 5 ⑥ ⑦ 8 9 10 11 12 ⑬ ⑭ 15 16 17 18 19 ⑳ ㉑ 21 22 ㉑ 24 25 26 ㉑ ㉑ 28 29 30 31 * * * * * * * * * *	<b>1</b> * * * * ① ② ③ ④ 5 6 7 8 9 ⑩ ⑪ ⑫ 13 14 15 16 ⑰ ⑱ 18 19 20 21 22 23 ⑳ ㉑ 25 26 27 28 29 30 ⑳ * * * * * * *	<b>2</b> ① 2 3 4 5 ⑥ ⑦ ⑧ 9 10 ⑪ 12 13 ⑭ ⑮ 16 17 18 19 20 ⑰ ㉑ 22 23 24 25 26 27 ⑳ ㉑ 29 * * * * * * * * * * * * *	<b>3</b> * 1 2 3 4 5 ⑥ ⑦ 8 9 10 11 12 ⑬ ⑭ 15 16 17 18 19 ⑳ ㉑ 21 22 23 24 25 26 ⑳ ㉑ 28 29 30 31 * * * * * * * * * *

部分は延長開室 月～金 9:00～20:00 土曜・日曜 休 室  
 部分は通常開室 月～金 9:00～17:00 土曜・日曜 休 室  
 ○ 部分は休室日及び休室予定  
 ※ 臨時に休室することがあります。掲示でお知らせします。  
 開室等問い合わせ先：図書分室 0172-39-5916  
 学外者にも閲覧・貸出しております。メインカウンターで手続してください。

## —ガイダンスのお知らせ—

図書館の利用方法を総合的に紹介するため、次のガイダンスを行います。

### 1. 図書館ツアー（新入生対象）

期 間 4月14日（月曜日）～18日（金曜日）の5日間

時 間 16:00～17:00

集合場所 附属図書館2階「新聞コーナー」前

（事前申し込みは不要です。5分前までに集合してください。）

内 容・図書館の利用方法と館内ツアー（書庫内見学を含む。）

- ・レファレンス・サービス（文献複写、相互利用など）の利用案内
- ・OPAC（オンライン全学総合目録）の利用方法

### 2. 図書館ガイダンス・実践編

（学部学生3・4年生対象）

期 間 5月、10月中のそれぞれ5日間（予定）

時 間 未定

集合場所 附属図書館2階「参考図書室」

内 容・卒論研究などのための図書館利用方法

- ・図書館資料（書庫など）の利用方法
- ・レファレンス・サービス（文献複写、相互利用など）の利用案内
- ・「雑誌記事索引」などの各種データベースの利用方法
- ・WebCat（全国総合目録データベース）の利用方法

### 3. 図書館ツアー (ゼミ単位)

日時 常時受付  
内容 新入生対象のツアーに比べ、OPACによる資料検索や資料の請求・貸出しなどに重点を置いた、より具体的な内容を予定。

集合場所 附属図書館2階「新聞コーナー」前

(事前申し込みは不要です。5分前までに集合してください。)

内容 例年秋に開催される総合文化祭において学外の方を対象とした図書館ツアーを実施しています。

・利用登録を申請した方には「図書館利用証」を発行しています。

### 4. 総合文化祭図書館ツアー

(一般市民対象)

期間 総合文化祭開催期間中  
時間 未定

## 〈おわびと訂正〉

前号に掲載した本学教官等著作寄贈図書・資料の中で、古田孝之名誉教授と品川信良名誉教授から寄贈の図書の書名に誤りがありました。おわびして、訂正します。

#### 誤

古田 孝之	・線形成用への誘い (行列からヒルベルト空間上の有界線形成用素へ)
品川 信良	・INVITATION TO LINEAR OPERATORS  ・より良い医療を求めて

#### 正

古田 孝之	・線形作用素への誘い (行列からヒルベルト空間上の有界線形作用素へ)
品川 信良	・INVITATION TO LINEAR OPERATORS  ・より良い医療を求めて

## 編集後記

雪も消え生命が躍動し始めた春、新入生を迎えたキャンパスは活気に満ちています。希望溢れたこれらの若き学究の知的好奇心を満たすために図書館は完備されています。受動的に知識を取り入れるラジオやテレビと違って、読書には能動的に知識を取り入れるという特徴があり、これが知識の幅と深さを拡大させることになります。この小冊子「豊泉」が、「宝の山である図書館」へ皆さんが足を運んで、大いに読書し、蔵書を利用していただくことの役に立てればと期待します。

第24号発行にあたり、遠藤正彦学長から大学出版について、清水俊夫図書館長より図書館の活用についてのご寄稿を頂きました。また、六名の先輩諸君から図書館の利用法と読書について後輩への貴重なアドバイスを頂きました。ご協力ありがとうございました。

(松本光比古 記)